

越前国府発掘プロジェクト（2024年度）

～越前国府跡発掘調査～

令和5年度（2023年度）に本興寺境内（国府1丁目地係）で実施した越前国府跡発掘調査では、平安時代の遺構が検出されました。

令和6年度の調査ではその東隣を調査し、5年度に検出された区画溝の続きが見つかりました。溝は調査区よりさらに東へ続いていくため、溝の範囲確定には至りませんでした。

なお、平安時代に使われていた須恵器や土師器、緑釉陶器などが出土しています。

②緑釉陶器（椀）

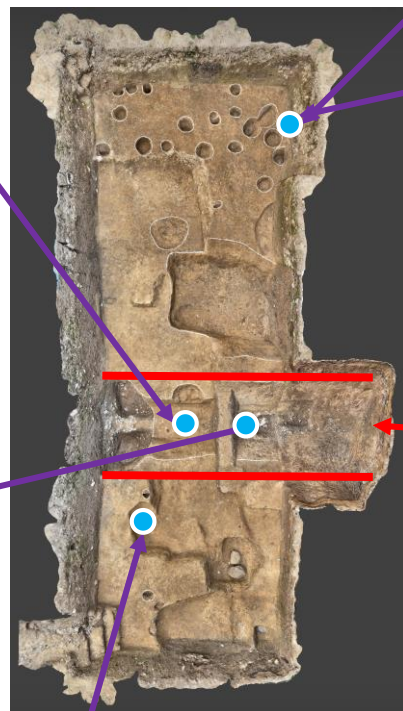


溝の埋土から出土した緑釉陶器の底部。底には糸切り痕が残っている。

③須恵器（高坏）



須恵器の高坏の脚部。通常とは異なり、生焼けのような仕上がりになっている。



④土師器（皿）



土坑埋土から出土した土師器。皿の一部と思われる。

⑤ピット（平安時代）



調査区北東側に位置する穴。遺物がまとまって出土している。

⑥須恵器など



ピットの中には、須恵器の坏身や甕の一部が重なるようにして埋まっていた。

①区画溝



国府関連施設の区画溝の可能性はある。西側は後世に掘られた穴（かく乱）の影響で、溝の一部が壊されている。

越前国府発掘プロジェクト（2024年度） for Kids

～越前国府跡発掘調査～

2023年度から5年をかけて、平安時代には越前市におかれていたといわれる越前国の国府（政治の中心地）を探すための調査をしています。

2024年度の調査では、平安時代の溝が見つっています。この溝は国府にあったお役所の周りを囲んでいた溝の一部かもしれません。また、平安時代に使われていた食器なども見つっています。中には、貴族やお役人しか使えなかったとされる緑色の陶器も見つっています。

②緑釉陶器（椀）

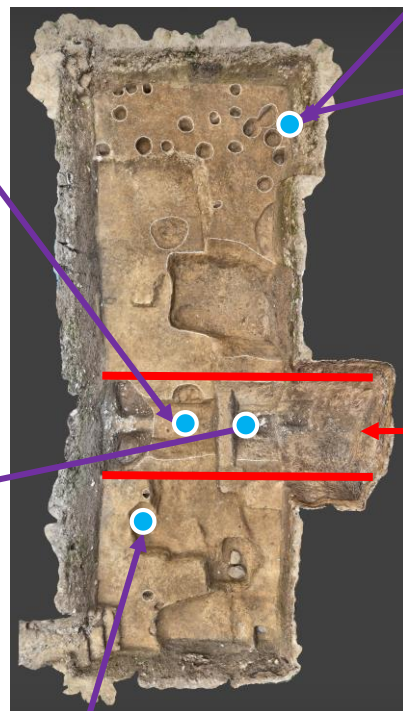


きれいな緑色の陶器です。平安時代には高級品とされていました。

③須恵器（高坏）



お椀の下に脚がついている形の食器です。脚の部分だけが見つっています。



④土師器（皿）



土師器とよばれる平安時代の食器です。お皿として使われていました。

⑤ピット（平安時代）



平安時代に掘られた穴。食器などがたくさん埋まっていた。

①区画溝



平安時代に作られた溝です。国府にあったお役所の周りを囲んでいた溝かもしれません。

⑥須恵器など



穴の中から、灰色のお椀や、大きな壺の一部が見つっています。